新広報伊方町

発行所 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 町長公室
印刷所 尾上印刷所 八幡浜市大神通 電話 ㊀0091番

大いなるはばたきの春

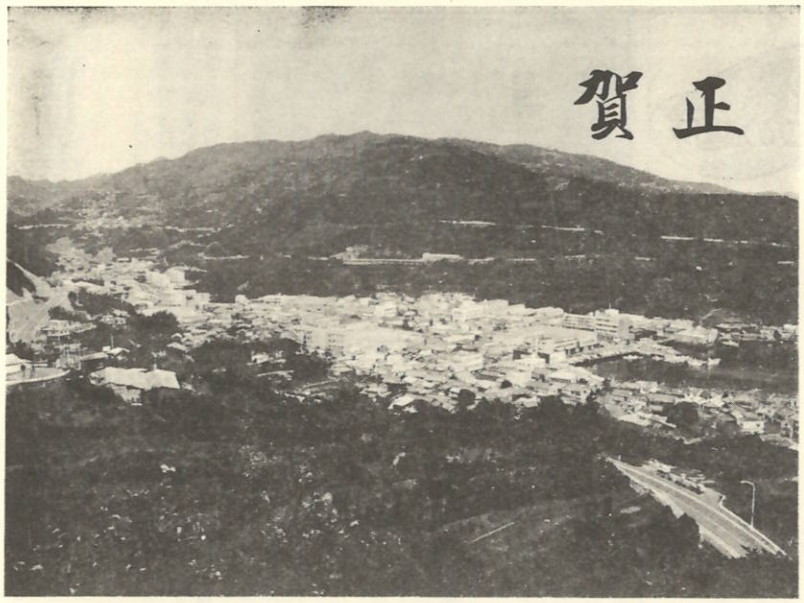
新しい年、一九八二年のすがすがしい新春を迎え、心からご祝詞を申し上げます。

明けましておめでとうございます

〝地方の時代〟と呼ばれている八十年代にあって、豊かな風土と恵まれた自然環境のもと、わたしたちの町「伊方町」は一歩一歩着実に前進しています。

こうした意味で、ことしの幕明けは「大いなるはばたきの春」と言えそうです。

トリ年のつぎに迎えたことしはイヌ年。イヌは知恵と勇気と誠実の代名詞のような動物。すばらしいイヌのイメージにあやかって、よりよい年にしたいものです。



三崎半島の大動脈、国道197号線バイパス工事も着々と進み、わたしたちの町も大きく変わろうとしています。また、ことしの12月には役場庁舎横に地上六階建の「町民会館」が完成します。

豊かで活力ある町づくり

町長 福田直吉

新しい一九八二年の幕明けです。町内の皆様方をはじめ、遠く町外でご活躍の皆様もご一家団らん楽しく、輝かしい新春をお迎えのこととご祝詞申し上げます。

昨年は異常寒波、もどり寒波の襲来で、特に晩柑類の伊予柑、ネーブル等に多大の被害を受けるいっぽう水道管、メーター器の破損が相次ぎ苦難の年明けでありました。

一昨年の史上まれに見る冷夏長雨といい、まさに異常気象は私たちの生活面において種々の影響を与え、その大自然のおりなす業の大きさを二年連続体験してきたわけであります。

いっぽう、我が国の行財政は長期にわたる経済の高度成長を背景として、行財政需要の増大、高度化に対応して急速に膨張拡大し、未曽有の財政危機を招くに至りました。

そこで政府としては、昭和五十七年度はきびしい財政事情の中で財政再建を大きな柱に行政改革の推進を最重点におき、歳入歳出の全面的見直しなど伸び率ゼロの緊縮予算となる見通しで、必然的に地方自治体にしわ寄せがくる苦しい年になりそうです。

また、本町としましても国の財政肥大化要因に加え、原子力発電所立地による財政規模の拡大が行われ、国の財政伸び率以上に一層肥大化が進んできております。

本町の財政環境は、原子力発電所の固定資産税などが大きな割合を占めていますが、二号機に係る固定資産税は昭和五十八年度からの収入になることから、本年度の税収は相対的に落ち込む年度となります。

このような状況の中で、町民の皆様から出てまいります多種多様の要望をいかに満たし対応して行くか、効率的な財政ベースの保持が今こそ大切な時期はなかろうかと存します。

ことしの十二月には、木町始まって以来の一大事業であります町民会館が完成致します。

町民会館は中央公民館、原子力広報センター、原子力監視施設からなる複合施設であります。

完成後、この町民会館が子供らお年寄りまですべての町民の皆様方が憩い、そしてコミュニティづくりの場として、それぞれ有意義にご利用いただき、多くの文化的、行政的効果の向上を期待致します。

つぎに原子力発電所関係ですが、昨年九月の町議会ならびに十月の県議会で三号機増設の促進決議、ついで白石知事の受入れ表明があり、本年度は環境調査等が実施されてまいります。

こんども町民の皆様の意向を反映しながら、安全の確保に重点をおき、三号機立地に伴なう条件整備に対応して行く所存であります。

本町の町づくりは、農林水産業の振興によって第二、第三次産業構造の伸展の道につながるものと思います。

内外ともに、かってないきびしい情勢下ではありますが、一豊かで活力ある町づくり」を基本理念におき、一意専心がんばる覚悟でございます。

このすがすがしい新春を迎え、皆様方のご幸福を祈念申し上げますとともに、相変らぬご指導とご協力をお願い申し上げ、所感の一端をのべて年頭のごあいさつと致します。

町民の信頼に応える

議長 辻忠義

あけまして
おめでとうございます

町民の皆様にはご家族お揃いで、昭和五十七年の新春を迎えられたことと存します。

年頭にあたり、新しい年が希望と幸福に満ちた年でありますようと心から祈念致します。

旧年中は、町民の皆様方には町行政の推進と円滑なる議会運営に、格別のご協力とご鞭撻を賜わり厚く感謝致しております。

低成長下のきびしい社会情勢の中にあって、本町はここ数年、飛躍的な発展を遂げて参りました。

このことは、町民の皆様にも満足していただいていることと存じます。

しかしながら、当面なお幾多の重要案件が山積みいたしております。特に皆様方の最も関心の深い問題は、原子力発電所三号機の増設促進であります。

このことにつきましては、町民福祉の向上と町行政、財政の将来の展望を見極めながら、昨年九月に増設促進を議決したところでございます。

私ども議会は皆様方の負託に応える議決機関として、町村自治にたずさわる使命は、ますます重大であると痛感いたしております。

今後とも、皆様方の信頼に応えるため決意を新たにし、町民各位の生活基盤の整備ならびに福祉向上のため、最大の努力を傾ける所存であります。

町民の皆様には、議会に対しまして一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方のご多幸をお祈りし、新年のごあいさつといたします。

町議会議員

（議席順）

辻忠義　高野忠遠　加藤惣一　篠川英惣　井上鶴雄　福田弘　梶田忠義　重岡雅樹　宮崎惣市　菊池伝治　黒田俊栄　竹場淳　小泉久　竹内藤雄　松本亀明　安部安　政木吉春　二宮徳志　田中発

議会事務局長

新春マラソン大会

1月3日 伊方中をスタート

伊方体育振興協会（宮崎惣市会長）主催による第一回「新春マラソン大会」が、一月三日に開催されます。

コースは三つに分かれ、いずれも伊方中学校が起点。小学生が中浦公民館を折り返す三キロメートル、一般で二十六歳以上が一里塚を折り返す四・五キロメートル、高校生と一般の二十五歳以下が大浜バス停留所を折り返す八キロメートルとなっています。

それぞれ、午前十一時に伊方中学校グランドをスタートする予定です。

沿道ぞいのみなさん、多数ご声援ください。

つつしんで新春のお喜びを申し上げます

役場

町長 福田直吉
助役 木戸五雄
収入役 岩井正
総務課長 脇田道
企画財政課長 桝田佳明
税務課長 二宮一
福祉課長 阿部喜光
住民課長 桝田信夫
建設課長 山口和哉
産業課長兼南予用水対策室長 西田恵明
生活環境課長兼保健センター所長 松田勝彦
水道課長 市尾隆志
町長公室長 岡元幸雄
支所長 林鍛
政策室長 山下和彦
農業委員会事務局長 鎌土勝利
職員 一同

教育委員会

委員長 栗田龍彦
教育長 浜口旭
次長 大森次郎
給食センター所長 兵頭定
委員・職員一同

区長

大浜 吉平善治
中之浜 門田惣三郎
仁田之浜 徳江公一
河内 上野進
湊浦 一武田義峯
湊浦二 村田和助
小中浦 大通国光
伊方 越兵頭武
亀浦 中田代喜男
中浦 山下泰敏
川永田一 篠上清光
川永田二 中川光照
豊之浦 林忠也
奥 大沢義文
向 浪下勝美
畑 山口軍兵衛
須賀 井田芳生
久保 松田克之
西 根来寅義
二見 上田博明
加周 樫尾礼敏
田之浦 山瀬清
古屋敷 上野多喜雄
大成 藤岡功
鳥津 上田為茂

西川君（伊方中）らに町長賞
人権作品入賞決まる

町人権擁護推進協議会が募集した、人権作品の入賞発表と表彰式が十二月四日伊方小学校講堂で行われました。

これは、本町が昭和五十二年四月・人権モデル町・として指定されたのを機会に、人権思想の普及をはかるために毎年行われているものです。

応募総数四百八十五点の中からつぎのみなさんが上位入賞されました。

1人ひとり表彰を受ける入賞者のみなさん。

（町長賞）
作文　西川知紀（伊方中）
標語　山内一広（町見中）
〃　細川由紀子（二見小）
書道　河上文栄（水ケ浦小）
〃　東陽子（伊方小）
書道　亀井幸一（伊方小）
〃（硬筆の部）三浦有加（伊方小）
ポスター　井村成孝（伊方中）
〃　堀内千代（九町小）
（人権擁護委員伊方部会長賞）
作文　中村恵子（町見中）
標語　阪戸洋志（町見中）
書道　亀井幸一（伊方小）
〃（硬筆の部）三浦有加（伊方小）
ポスター　渡辺睦（町見中）
〃　亀井幸一（伊方小）
（町人権擁護推進協議会長賞）
作文　飛田さち（伊方中）
標語　加藤正道（町見中）
書道　吉田真勝（二見小）
〃（硬筆の部）佐々木真美（伊方小）
ポスター　井村成孝（伊方中）
〃　堀内千代（九町小）
（町教育委員会賞）
作文　西田美香（伊方中）
標語　井上公一（伊方中）
書道　河上文栄（水ケ浦小）
〃　福山勝久（伊方小）
〃（硬筆の部）中藤仁美（水ケ浦小）
ポスター　川上尚子（伊方中）
〃　宮内美香（有寿来小）
（町教育委員会賞）
作文　西田美香（伊方中）
標語　井上公一（伊方中）
書道　福山勝久（伊方小）
〃（硬筆の部）中藤仁美（水ケ浦小）
ポスター　二宮慶吉（伊方中）
〃　宮木香（有寿来小）
（町議会議長賞）
作文　西田美香（伊方中）
標語　神野たみ（伊方小）
書道　上田千恵（豊之浦小）
〃（硬筆の部）西田ひろみ（有寿来小）
ポスター　二宮伸子（町見中）
〃　谷村栄樹（九町小）
ポスター　成田典正（伊方小）

えひめこども美術展
木下君ら六人入賞

えひめこども美術展（県教育委員会など共催）の入賞者が発表され、町内からは木下公男君（伊方小）ら六人が推薦に選ばれました。

この美術展は、県下の幼児、児童、生徒の美術作品を一堂に集め毎年行われているもので、ことしは応募総数二十五万点の中から、二千三百六十四点が入賞しました。

入賞されたみなさんはつぎの方々です。

おめでとうございます。これからもよい作品をつくり続けてください。

◎絵画（宝石作品）
小学生の部　推奨
一年　木下公男（伊方小）
〃　明神匡哉（伊方小）
二年　米沢太郎（伊方小）
〃　玉井一寿（伊方小）
四年　飛田文香（伊方小）
中学生の部　推奨
三年　清水由美（伊方中）

この人　この趣味　No.26

夫婦ともにスポーツの虫
山口幸由さん（久保）

夫婦円満もスポーツから……

昨年三月に完成した町見体育館。四月から一般開放が始まり、小学生からお年寄りに至るまで連日多せいの方がスポーツを楽しんでいます。

今月紹介する山口幸由さん（四十九歳）は、この町見体育館が完成するのを首を長くして待ち望んでいた一人です。

「いつでも、自由に使える運動施設」が山口さんの念願だったからです。もちろん、山口さん自身も無類のスポーツ好きで、二十年以上も地域のリーダーとして活躍されています。

二十年前と言えば、一般のスポーツ人口はとてもすくなかった九町地区では年一回のバレーボール大会が、婦人会の主催で開かれていた程度。それも、運動場のすみで・モンペ姿にハダシ・だったとか！。

山口さんは、昭和三十六年に体育指導委員制度が設けられると同時に、町の指導員に委嘱されました。

それからというもの、まるで「スポーツの虫」、スポーツ少年団や町見・健康クラブ（バレーボール同好会）の結成に尽力。両方とも結成以来十二年間も連続して会長を務められています。

特に、町見健康クラブの結成には、奥さんのサカエさんと二人三脚。ご主人の幸由さんが場所の確保を、奥さんのサカエさんが友人や近所を勧誘して回り、やっとの思いで結成にこぎつけたそうです。

会員も約三十五歳以上の女子だけ二十人あまりだったのにくらべ、今では男女をあわせて五十人以上。結成時の苦労とは裏腹に、解散も衰退の危機など一度もなく、毎週一回の練習を欠かさず続けています。

一番思い出に残っていることは、昭和五十一年の婦人バレーボール南予大会・準優勝したこと。反対に一番つらいことは、試合のたびに「九枚しかないレギュラー番号のユニホームを渡すとき」だそうです。

今日もバレーボールを手に、ご夫婦で練習に出かける山口さん。

地域のスポーツがますます盛んになるとともに、コミュニティの輪をどんどん広げてほしいものです。

渡辺定幸さん
―行政管理庁―長官表彰―受ける―

小中浦の渡辺定幸さんが、行政相談功労者として行政管理庁長官表彰を受けました。

渡辺さんは、昭和四十二年四月行政相談員に委嘱されて以来、十四年間にわたり行政に対する苦情相談やその解決に当ってこられました。

今回の表彰は県下でわずか二人。昨年十二月十八日に東京の明治神宮会館で行われた、行政相談委員制度発足二十周年記念式典の席上で表彰を受けました。

大人の仲間入り
ことしは七十六人

一月十五日は「成人の日」。ことしも中央公民館で成人式を挙行致します。

大人の仲間入りをするみなさんを祝い励ます記念行事です。新成人に該当する方は全員ご出席ください。

ことしの成人該当者は、昭和三十七年一月一日から十二月三十一日までに生まれた方々で、つぎの七十六人です。

該当者の方々には、すでに案内状を送付いたしましたが、該当者でまだ案内状が届いていない人、町外から帰って本町の成人式に出席を希望される人、町内で働いていて出席したい人は、中央公民館（八―一〇二〇）までご連絡ください。

また、本町では、新成人のみなさんのご協力で、今真洋服で出席していただいています。ことしも服装の簡素化に協力をお願い致します。

（新成人紹介）

▽大浜　谷口誠、谷藤勉二、菊池久、中藤宗昌、吉野和弘、宮藤真吾、山藤登美、中川美智子、大黒順子、浜田富江

▽中之浜　永井英司、上甲覚、上甲恵美

▽仁田之浜　島本昌明、松本誠明、上田健二、渡辺美樹、田中真美、道上智恵

▽河内　木戸秀輝、山口功志、吉原裕里二、梶原真美

▽亀浦　三好千代昌、渡辺善重

▽小中浦　松本圭子、政木弘子

▽中浦　井上忠、田所智彦、塩見孝、堀田繁

▽川永田　菊池清文、菊池喜起、松平藤寛、阿部雅二、登口正規、大黒貴美

▽豊之浦　渡辺多賀也、高石明、山中智恵、菊池勇男、井上英穂、井上恵子

▽奥　桑原治志

▽向　浪下勝幸、下向哲男

▽畑　脇田慎也

▽須賀　米沢利文、三根生和明

▽久保　梶能孝志、武内昭人、高内満、桝田英治子

▽西　根来与志典、上田玉枝

▽二見　道上勇一

▽加周　西村弘美、林みすえ

▽古屋敷　小島直彦、古田伸治

▽田之浦　山岡幸、松江幸恵、重岡香

▽大成　高田建治

―お礼―

大阪府摂津市正術本町二丁目一〇―一四にお住いの、上田熊雄さん（九町出身）より一万円。広報編集費用にとご寄附いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

人

昭和56年10月末現在
世帯数2,529戸（＋3戸）
人口　8,748人（男4,187人（＋4人）（＋10人）女4,561人（＋6人））

えんむすび

昭和56年10月1日～10月31日

氏名	挙式	本籍

お誕生おめでとう
よい子に育ってください

昭和56年10月1日～10月31日

保護者	続柄	児名

おくやみ

昭和56年10月1日～10月31日

編集室

輝かしい新春を迎え、つつしんでお喜び申し上げます。

旧年中は、広報「伊方町」の編集にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

町民のみなさんに、親しんでいただける広報紙づくりを目ざしたいと思っています。

ことしもよろしくお願い申し上げます。